

第 5 号様式（第 7 条関係）

会議録

会 議 の 名 称	令和 6 年度 清須市生涯学習推進計画策定検討会
開 催 日 時	令和 6 年 7 月 8 日（月） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分
開 催 場 所	清須市役所南館 3 階 大会議室
議 題	1. あいさつ 2. 会長・副会長選出 3. 議題 (1)清須市生涯学習推進計画（第 2 期）の方向性について (2)清須市生涯学習推進計画（第 2 期）策定スケジュールの確認について (3)清須市生涯学習推進計画（第 2 期）市民アンケート等の確認について (4)その他
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 資料 1 「生涯学習推進計画基本理念検討資料」 ・ 資料 2 「生涯学習推進計画（第 2 期）策定スケジュールについて」 ・ 資料 3－1 「市民アンケート調査票（案）」 ・ 資料 3－2 「児童・生徒向け調査票（案）」 ・ 資料 3－3 「団体調査シート（案）」 ・ 別紙 1 「策定委員名簿」 ・ 別紙 2 「市生涯学習推進計画策定検討会議設置要綱」
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	0 人
出 席 委 員	大村委員、丹羽委員、和田委員、佐藤委員、野呂委員、梶浦委員、吉田委員、小出委員
欠 席 委 員	河合委員、富田委員
事 務 局	天埜教育長、石黒教育部長
	（生涯学習課）

	大沼課長、藤田課長補佐、柴垣課長補佐、鈴木生涯学習係長、葛西文化振興係長、宮川主事 (スポーツ課) 高山スポーツ課長、鈴木スポーツ係長
会 議 の 経 過 1. あいさつ 天竺教育長よりあいさつ 2. 会長・副長選出 丹羽委員の指名推薦により、大村委員が会長に、大村会長の指名により丹羽委員が副会長となった。 大村会長及び丹羽副会長よりあいさつ 2. 議題《意見の要旨》 (1) 清須市生涯学習推進計画（第2期）の方向性について ○大村会長 それでは議題（1）「清須市生涯学習推進計画（第2期）の方向性 について」事務局から説明をお願いします。 ●事務局 資料1 「生涯学習推進計画基本理念検討資料」に基づき説明 ○大村会長 今の説明についてご意見、ご質問をいただきたいと思います。 ○丹羽副会長 今回の基本理念と、前回の計画の違いを教えてください。 ●事務局 前回の計画では、「誰もが生涯にわたって学び続けられ、個性を育むまち、きよす」を理念としていました。今回は、この個々の学びから一歩進んで、学びで繋がりが合うことで、学びが地域に還元される交流や繋がりが生まれるという、学びが循環する要素を盛り込んでいる点が異なっています。令和5年に策定された第3次愛知県生涯学習推進計画でも、「自己を高め、地域と繋がり、未来を築く生涯学習社会」という基本理念を掲げています。様々な課題に直面する中で、なりたい自分になるために生涯学び続け、その学びを社会に参加する一員として、1人1人が学びで得た知識や経験を社会に還元し、ともに支え合う社会の形成者になることで課題を乗り越え、より良い未来の実現を目指すものと私は捉えています。清須市でも前回の計画の理念は、「誰もが生涯にわたって学び続けられる」というものでしたが、今回の計画の理念は、個性を育むための個々の学びを学び合い、繋がりが合う仲間作りや	

地域との繋がりを通じて、より良いまちづくりの要素となるイメージで理念を考えました。

○梶浦委員

「内容」に書かれている末尾の「取り組みます」という言葉と「努めます」という言葉の使い分けには考えがあるのか。また、成果指標について、市民アンケートと市民満足度調査の2つがあるが、アンケートではかるものなのか、利用実績でとらえるのか教えてください。

●事務局

「取り組みます」と「努めます」については、大きな違いを考えていません。これらの表現については今後検討していきます。

「市民アンケート」と「市民満足度調査」についてですが、この市民アンケートは、資料の3-1にある生涯学習に特化したアンケートをこの計画を作るために行うものです。この満足度調査というのは、企画政策課で2年に一度実施されている市民満足度調査であり、これが別の指標となります。2つの指標を成果指標として、生涯学習の推進がどのように市民に捉えられているのかを評価していきます。

○大村会長資料

では、成果指標のところでは「実績により把握するもの(毎年)の2種類」とあるが、これはまた別のものがありますか。

●事務局

社会教育委員会や社会教育施設運営委員会で社会教育施設の利用実績や生涯学習事業の参加者の人数が毎年実績として数字が出ます。市民アンケートは「(5年ごと・10年ごと)」とありますが、実際には5年ごとに実施しています。

○和田委員

現行の計画は、2つの基本目標を持っており、現在ご担当の方がご尽力されていますが、次期計画では4つの基本目標を掲げています。具体的に誰がどのように実施するかを明確にするため、今後のロードマップのようなものを作成し、実施する計画はありますか。

●事務局

本日の会議で基本理念と基本目標が決定した後、生涯学習推進計画の詳細な目次を決めていく予定です。現在、ロードマップを含めるかどうかについては、まだ話し合いが進んでいません。どのような形で目標達成のプロセスを記載するかは、今後の検討課題とさせていただきます。

○和田委員

誰が担当するのかを明確にすることが重要です。全体でやりますという話では、実効性が不明確になりますので、できれば担当者を具体的に決めていただければ

と思います。

○大村会長

それぞれの政策の責任部署を決めて、ロードマップを作成したらどうかというご意見・ご提案と承らせていただきます。

○野呂委員

日頃は子育て支援の活動を行っております。また、男女共同参画の取り組みにも参加しています。子育てはもちろんですが、男女平等参画の推進も市民の皆様を広めていきたいと考え、生涯学習課の皆様にもご協力いただき、今年度は男女共同参画週間に関する情報を子どもたちに届けるチラシを配布することができました。今回の大きな計画で、男女共同参画の重要性をさらに広めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○大村会長

今回は基本理念についてご意見をいただきたいと思います。基本目標についても関わるかもしれませんが、ご意見をいただければと思います。

○丹羽委員

私は芸術関係でさまざまな活動に関わっていますので、さらなる芸術活動が盛んになることと、子どもたちがそれに触れる機会を持てるような政策があると良いなと考えています。

○大村会長

「未来へ受け継ぐ歴史・文化・芸術」の一つ目「文化芸術活動の充実」を大事にしたいということですね。

○和田委員

子どものころに新川を開削した方の話を学校で学んだ記憶があります。地域と歴史について、子どもたちに繋げることができればありがたいと思います。

○佐藤委員

女性の会としては、基本理念の「つながる」と「ささえる」の理念を元々掲げて取り組んでいるため、今後も続けていきたいと思っています。

○梶浦委員

体育協会では、自分の体力に合わせてできる種目やルールを「まなぶ」ことができ、「つながる」では、ルールやマナーなど、様々なものがつながる、「うけつぐ」では、ここでは文化や歴史として書かれていますが、スポーツにおいても礼儀作法や上下関係やルールを「うけつぐ」視点があります。「ささえる」では、スポーツ施設を利用する中で、地域の健康面や利用面などで支えることをしています。体育協会はすべてに関係していると思います。

○吉田委員

どの分野にしても「まなぶ」「つながる」「うけつぐ」「ささえる」は大事だと思います。活動をしていると、親が「まなぶ」、活動の場で「つながる」、大事なことは「うけつぐ」、そして子育てについてみんなで「ささえる」となっています。この基本目標の4つはとてもいいことだと思います。

○野呂委員

「まなぶ」「つながる」「うけつぐ」「ささえる」は今の活動につながっていると自覚しました。今年清須市でははぐくみ宣言はなされ、子育てをしている親子に寄り添う活動ができたらいいいと思います。

○小出委員

生涯学習推進計画の基本理念は大変良い表現であると思います。「だれもが」主体だと思うので、表記の検討が必要だと思います。「まなぶ」「つながる」「うけつぐ」「ささえる」は非常に良いが、歴史を受け継ぐだけでなく、「新たな文化の創造」について政策の中で触れてもらえるといいと思います。

○大村会長

次期計画の基本理念「個性を育み、学びでつながるまち、きよす」と、基本目標「まなぶ」「つながる」「うけつぐ」「ささえる」の4領域についてご賛同いただいたと承りました。

私の意見としては、基本理念が個人の学習が「個性を育み」に表現されており、同時に「学びでつながるまち」で、学習が人と人とをつなぎ、地域社会をつくっていくということで、個人と地域社会のどちらも大事にして繋げていくという意味で、基本理念は非常にいい表現をしていると思っています。

4つの基本目標も見る視点として非常にいいと思っています。「まなぶ」は個人の自己実現、「つながる」は個々の学びが横につながって地域社会をつくるという表現、「うけつぐ」は学習活動の基盤となる文化、歴史、社会的なつながりをどのように豊かにするのかという表現、「ささえる」は環境整備だと思います。

小出委員がおっしゃったように、「だれもが」という視点は非常に重要です。現在のSDGsや様々なまち作り、教育の中でも「誰一人取り残さない」という考え方が強調されています。それは、この生涯学習推進計画にも当てはまることだと思います。そして、その主体を育てること、誰もが、あるいは誰一人取り残さないように、様々な立場や状況・条件にある人々でも参加できるようにする視点を、ぜひ事務局で考えていただければと思います。

私が最初に話したことから言うと、個人で学習することと、集団で繋がりがながら学ぶこと、あるいは学びながら繋がりを作ることに於いて、コーディネーターという、人と人を繋げる役割が重要です。冒頭の話の中では、社会教育主事や社会教育士という話を挙げましたが、これまで社会教育の中では社会教育リーダー

や実践家など、指導者という名前で表現されてきました。

住民の中で中心となって頑張ろうとしている人たちをどう支えるか、少子高齢化や女性やシニア世代の就労増加の中で、社会活動を担う人たちをどう支えるかは非常に重要な問題です。4つの基本目標の中で「ささえる」という項目に入るのかもしれませんが、リーダーを支え育てる視点をぜひこの計画に入れていただければと思います。

(2)清須市生涯学習推進計画（第2期）策定スケジュールの確認について

○大村会長

それでは議題（2）「清須市生涯学習推進計画策定スケジュールの確認について」事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料2「生涯学習推進計画（第2期）策定スケジュールについて」に基づき説明

○大村会長

今の説明についてご意見、ご質問をいただきたいと思います。

○委員（意見なし）

○大村会長 お認めいただいたということで、進めさせていただきます。

(3)清須市生涯学習推進計画（第2期）市民アンケート等の確認について

○大村会長

それでは議題（3）「清須市生涯学習推進計画（第二期）市民アンケート等の確認について」事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料3-1「市民アンケート調査票（案）」に基づき説明

○大村会長

今の説明についてご意見、ご質問をいただきたいと思います。

○小出委員

アンケートは3種類ありますが、まず市民アンケートについてお聞きします。今までは18歳以上を対象としていましたが、今回は16歳以上とした理由として、若者世代の意見を吸収するためということでした。一般的に何を期待し、どのような成果を考えているかを教えていただきたいと思います。

次に、小中学生を対象としたアンケートについてですが、どのように実施されるのか、そして内容が簡単すぎるのではないかという点についてもお聞きしたいです。

団体のアンケートが非常に簡便な形で行われていますが、一体どこまでの団体

を把握しているのでしょうか。様々な団体があると思いますが、生涯学習に関わるものとしては、スポーツ少年団、緑の少年団、文化財に関する少年団などが考えられます。これらの団体の指導者の方がアンケートに答えるのでしょうか。また、団体についても、クラブ、サークル、文化協会、体育協会など、様々なものがあります。それ以外にも多くの団体が存在しますが、どこまでの団体にアンケートを実施するのか、お尋ねしたいと思います。

●事務局

資料3-2「児童・生徒向け調査票（案）」、資料3-2「団体調査シート（案）」に基づき説明

前は小中学生向けのアンケートが行われておりませんでした。今回は児童生徒用アンケートの実施を予定しております。こちらについては、市内小中学生に配布しているタブレットを活用して、小学校5年生と中学校2年生を対象に、9月に実施する予定です。

子どもたちが短時間で負担なく回答できるように配慮し、子どもたちの関心や学校外で学びたいこと、学校以外での居場所についての質問を設け、子どもたちの視点を反映させたいと考えております。

次に団体アンケートについてですが、こちらは前回も実施しております。前は10団体にご協力いただきました。今回も同じ団体様にご協力をお願いする予定で、8月に団体に調査票を配布する予定です。個々の団体には実施せず、文化協会などの代表する団体に調査を行う予定です。

続きまして、どうして16歳以上になったかについて説明いたします。令和4年6月に成立したこども基本法において、第3条第3号および第4号で、年齢や発達の程度に応じた子どもの意見の表明機会の確保、子どもの意見の反映が基本理念として掲げられています。それとともに、第11条で子ども施策の策定等に当たって、子どもの意見の反映に係る措置を講じることや、地方公共団体に対し義務付ける規定が設けられています。子どもを18歳や20歳といった年齢で区切ってサポートが途切れてしまわないように、心と体の発達の過程にある人を主として定義しております。

今回、市民向けとともに児童生徒向けのアンケートを実施することで、18歳以上や20歳以上としてしまうと中学生以上の若者の意見が抜け落ちてしまう恐れがありましたので、今回は16歳以上という年齢に設定しております。

○大村会長

団体調査を10団体に限る理由はありますか。

●事務局

前回は10団体としていたためですが、特に理由はありません。

○大村会長

できれば広く団体からの意見を聴取した方が良いのではないかと思います。前回と変わらないということは、清須市の社会教育関係団体が発展していないのではないかという印象を受けてしまいます。できるだけ新しい団体も含めて、意見を聴取していただく方が良いと思います。

○丹羽委員

問11番、5ページについてですが、AからNという記号は多分不要だと思います。質問の次にある「市の生涯学習関連施設」について、ここに書いてある施設だけなのか、それともその他の施設、例えば防災センターなど、10年前と比べて違う施設もあると思います。また、1番と6番に市民センターが重複していたり、新川体育館はもう存在しないと思いますので、その点も含めてもう一度見直していただけると良いと思います。

●事務局

委員のご指摘のように、既にない施設やこれから新しく確保した施設が入っていないという点について、こちらの手落ちです。訂正して、きちんとしたものに直していきたいと思います。ありがとうございます。

○梶浦委員

庄内川水防センター、水の交流ステーション、新川防災センター、枇杷島会館などが増えると思います。もう少し見直しをしていただきたいと思います。また、「生かす」と「活かす」の漢字が使い分けられているのか、混在しているところがあります。修正をお願いします。

調査票の配布年齢を18歳から16歳に変えたことで、2000人の配分はどうなりますか。16歳の回収率が悪くなることが予想されますが、策を考えていますか。年齢比率で配り方や回収比率を考えて有効なものにするのか考えてください。

また、生涯学習の意味やイメージを市民の方がどのように感じているのか聞くために、「生涯学習のイメージをどう感じているか」「生涯学習というものを理解していますか」「生涯学習という言葉はどんなイメージがありますか」という設問があったほうが良いと思います。問7「普段の生活において充実していると感じることはありますか」は生涯学習の満足度について聞いていますか。それとも普段の生活の満足度について聞いていますか。質問に誤解が生まれないようにしてほしいと感じました。

●事務局

生涯学習関連施設については、社会教育関連施設を挙げています。市内には社会教育施設ではない生涯学習施設的な機能をもった場所があるので、そこを挙げていただいたと理解しています。西枇杷島会館や水防センターは「その他」に書

いていただく形になることを想定して設問を作っています。

また、生涯学習の言葉のイメージを問うということについては、問9に「生涯学習を聞いたことがありますか」という設問があります。書き方が分かりにくいようであれば、練り直しを検討します。

次に、普段の生活が充実しているかという設問については、ウェルビーイングをイメージして設けた設問のため、誤解を生む表現であれば、再考します。

最後にアンケートの抽出方法は、無作為抽出を考えています。若い世代が答えやすくなるように二次元バーコードを用いてスマートフォンで答えられるように準備を進めています。

○大村会長

無作為抽出は、年齢ごとですか。

●事務局

市民全体から無作為に抽出することを想定しています。

○大村会長

年齢のばらつきが出ることは織り込み済みという理解でいいですか。

●事務局

細かく検討していないため、これから詰めていきたいと思います。

○大村会長

問7については、ウェルビーイングに関することなので、生涯学習ということではなく、生活での満足度や幸福度といわれる指標だと思います。「充実していますか」がウェルビーイングを表現するかどうかは精査が必要だと思います。ほかの調査では、幸福度調査などがあると思います。

○梶浦委員

今の説明で分かりましたが、広い世代に調査した場合に伝わるかは正直分かりませんので、言葉を補足するなり、表現を分かりやすくしたほうがいいと思います。

問13も良いと思いますが、「生涯学習に関する情報をどのように得られたら便利だと思いますか」の設問もあるとよいと思います。せっかく対象を16歳にまで下げたので、若者世代の意見ももらえるような問があったらいいと思います。また、問15では、生涯学習に参加するのによい時間帯や料金について聞くとよいと思います。

最後に、清須市の生涯学習をより活発で有効的なものにするために市はどのようにすべきだと思いますかという意見を選択式の設問にできるとよいと思います。例えば、生涯学習のための手厚いサポート支援をしてほしいとか、継続的なサポートをしてほしいとか、何を求めているのかという設問もあったほうがいい

と思います。

○大村会長

最後のご意見については、自由記述欄がありますが、そこではカバーできませんか。

○梶浦委員

書かないと思います。項目を挙げて、選べるようにしたほうがいいと思う。

○吉田委員

せっかくのアンケートなので、いろいろ聞きたい気持ちは分かりますが、私は設問を減らしてほしいと思います。清須市の講座では、終了時に希望する時間帯などを聞くアンケートが配られるため、今回のアンケートではもう少し整理していただき、書こうと思ってもらえるようにしてほしいと思います。

○大村会長

3 ページ目の生涯学習の定義が正確ではないと思います。

生涯学習は、生涯にわたって学習ができることやその考えのことを言います。一つ一つの学習は社会教育や学校教育、家庭教育などの形で行われているため、生涯学習という形で行うものではありません。一つ一つの学習をその人が生涯にわたって学んでいればそれが生涯学習であるため、設問も「生涯学習」をしたことがありますか」というより「学習」をしたことがありますか」と聞いたほうが、自分のしたことが生涯学習だったのかどうか迷わなくていいと思います。全体に関わることなので、検討いただきたいと思います。

アンケート調査は抽出のため、選ばれないと答えられないため、だれでも社会教育や生涯学習に関する意見を述べられる窓口を作っていただけるといいと思います。

○梶浦委員

団体アンケートについて、市内の活動範囲という欄がありますが、市外の施設を使っている場合があります。実態調査をするのであれば、「その他」や「市外」があったほうがいいと思います。児童生徒についても、市外という選択肢があってもいいと思います。

○大村会長

児童生徒向けは、市外の活動に参加をしているかどうかについても聞けるというご意見ですね。

○梶浦委員

生涯学習の成果や歴史文化の振興について、選択肢の数に決まりはありますか。問19は、愛着を感じるもの上位3つまでという書き方ならいいと思います。

●事務局

選択肢すべてを選択できてしまいそうなものについては、選択数を制限することを行っています。

○梶浦委員

愛着を感じるもので言うと、もしかすると5、6個選択したいかもしれない。行政にとってはいいことだと思うので、3つに制限することはないと思います。愛着を感じるもの上位3つまでという書き方ならいいと思います。

○大村会長

アンケート調査に関しては、まだご意見があるかもしれませんが、いつまでに意見を寄せれば反映が可能でしょうか。

●事務局

入稿の都合により、今週中にご意見をいただきたいと思います、

○梶浦委員

問16の生涯学習の成果について、「すでに生かしている」という選択肢を増やしたほうがいいと思います。

●事務局

現状としては、設問数をこれ以上増やすことは難しい状況です。インターネットでの回答についても、これ以上質問が多いと、実施することが難しくなってしまうので、ご承知おきいただきたいと思います。

(4)その他

○大村会長

それでは議題（4）「その他」について事務局からございますか。

●事務局 次回会議日程を連絡

閉会

会 議 の 結 果	審議に関する事項はなし
問 い 合 わ せ 先	教育部生涯学習課 0 5 2 - 4 0 0 - 2 9 1 1 （清須市役所南館1階）